

2023 年ゲスト審査委員 鈴木大介さんの講評

この度は関東アコーディオン演奏交流会(コンクール)にお招きいただき、皆様の素晴らしい日頃の成果を聴かせて頂けてたいへん感謝しています。

コンクールという、本来は特定の物差しで価値を測ることはできない音楽に順位をつける、というイベントの性格上、審査員というのはそれぞれの演奏を超越的な立場から俯瞰して見るのではなく、自身の体験や知識に基づいたレギュレーションを独自に設けた中で謙虚に演奏を聴かせていただくことしかできません。点数をつける、と言ってもそれは僕が勝手に決めている判断基準において、であり、しかもこの基準を決める際には、自分自身の多様な好みにある程度縛りをかけているのが実情です。それは例えば、今日の審査においてはパスタの茹で加減はアルデンテのものに高い点をつけよう、でも本当は近所の喫茶店のふかふかなナポリタンの麺だって好きなんだけど、といった具合に、です。そこでどっちも良い、としてしまうと、到底 10 分以内の演奏からは順位は決定できないからです。

今回も、そのような意味で、日頃、多くの聴衆を楽しませているだろう、いく人かの方のとても熟練した演奏に高位をつけることができませんでした。でもそれは、そのお店のパスタが不味かった、ということではない、ということをご理解ください。

そして今回のコンクールで僕が皆さんの演奏の他にもう一つ感動したことは、審査員の先生方が、非常に穏やかで建設的な論議をされ、認め合い、助け合うような審査が行われたことです。僕が、個人的な好みを反映して高得点をつけてしまった以外の大部分の方の平均点が、概ね僕つけた点数と誤差 0.5 点以内だった、ことからいかに他の先生方と意見が一致していたか、ということがわかんと思います。ほんとうに貴重な、得難い経験をさせていただき、どうもありがとうございました。あらためて感謝いたします。

鈴木大介

■鈴木大介■

武満徹から「今までに聴いたことがないようなギタリスト」と評されて以後、明晰な解釈力と洗練された技術によって常に注目を集める。マリア・カナルス国際コンクール第3位、アレクサンドリア市国際ギター・コンクール優勝。編曲作品は録音やコンサート共に好評で、様々なギタリストに提供し演奏されている。また、美術作品からインスパイアされたプログラムにも積極的で、これまでに国立新美術館「オルセー展」、ブリジストン美術館「ドビュッシー展」、都立現代美術館「田中一光展」他、多くの美術展でのコンサートを成功させている。2022年より8弦ギターによるバロック、ロマン派、南米音楽などに取り組み、独自の音響世界を広げている。